

夢(ながい)よ 宇宙(おおぞら)へ

徳島大学ロケット・プロジェクト・チーム
工学部 電気電子工学科 2年(写真右)
ロケット・プロジェクト リーダー
堀畑 大地 (ほりはた だいち)
工学部 生物工学科 3年(写真左)
バルーン班リーダー
池田 雄祐 (いけだ ゆうすけ)



ロケットを打ち上げる・・・工学系の学生なら、いや男の子なら、いやいや女の子だって、きつと興味のある人は多いはず。ましてや自らロケットを製作して打ち上げることを学生の間に経験できるなんて。

そんな思いで「ロケット・プロジェクト・チーム」が結成されたのは一昨年のことです。ロケットは写真のように2メートルほどの小型のもので、機体から全て手作りします。エンジンは亜酸化窒素ガスとプラスチック固体燃料によるハイブリッドエンジンです。

昨年の第1号機は残念ながら失敗。おもにロケットの中に入れた電子回路部分などに課題が残りました。

そんな中で、新たな発想が生まれました。気球を使った二段打ち上げです。きっかけは佐原理(さはらおさむ)准教授(大学院総合科学研究部)の提案でした。さっそく池田さんを中心に「バルーン班」が結成されました。半年ほどかけて準備した直径2.6メートルの気球は、9月に高知の室戸市で飛ばされ、見事に高度約35キロの成層圏まで達し、丸い地球の形を撮影することに成功しました。

破裂した後は徳島の牟岐港沖約40キロの海上で漁船で回収してもらいました。自分たちの力で撮影した丸い地球の写真を見るだけでもワクワクします。この様子は新聞でも紹介され話題となりました。

こうしてロケットを宇宙空間まで飛ばそうという構想の土台ができました。しかしながら大きな課題も残されています。

まずはロケット自体の打ち上げを成功させること。そして地上からでも難しい打ち上げを、どのように空中の気球から発射するか、ということでした。

チームは来年、和歌山で行われるハイブリッドロケット打ち上げに向けて次機を制作中です。困難はまだあります。しかし越える壁があるほど挑戦できるのが若さです。いつか徳大生のロケットが宇宙まで届いたら、再びこのコーナーで紹介したいものです。



映像・データ取得用モジュール



放球メンバー



上空34キロから撮影した地球



バルーン放球

My Campus Life

総合科学部 人間文化学科 4年
宮成 由季 (みやなり ゆき)



ヒジャブ体験 (マレーシア留学時)



授業中の一枚 (マレーシア留学時)



伝統フェスティバル (マレーシア留学時)

My Life Situation

サークル(所属団体)
「フルバンド部」でアルトサックスを担当
「英語コミュニケーション講座」でスタッフを務める

く実感したのは、私を支えてくれている人たちの存在です。留学に行くまではそこまで強く実感したことがなかったのですが、留学中に行き詰ったときに、家族や友だち、これまで一緒に活動してきたフルバンド部や英語講座の仲間が存在はとも大きな支えと励みになりました。ゼミの先生とも定期的に連絡を取り合っており、わたしの近況をゼミの仲間に伝えてくれていたようです。

言葉も、宗教も、文化も日本とは全く違う土地で多くの人々に出会い、多くのことを知り、体験し、学ぶことができたマレーシアでの留学は本当に貴重な経験となりました。また、自分自身を見つめ直す良いきっかけにもなったと思います。この経験を無駄にすることなく将来に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、このような執筆の機会を与えてくださった関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。



ラオスのブッダパークにて (マレーシア留学時)



フルバンド部 五月祭での演奏



英語講座 デイキャンバス後の記念撮影

みなさんこんにちは。総合科学部人間文化学科国際文化コース4年の宮成由季です。私は徳島県出身で、現在は同じ徳大生の妹と二人暮らしをしています。大学生活も残り約半年、4年間の大学生活を振り返ってみようと思います。私の中で一番大きな出来事はマレーシア留学です。3年次後期に約5か月間、交換留学生としてマレーシアのマラヤ大学に行ってきました。大学入学時から海外に行きたい、留学したいと思っており、家族や学部の先生方の支えも

あつて実現することができました。マレーシアは比較的治安が良く、住みやすい国と言われています。しかし、私にとって約5か月の留学はサバイバルでした。朝起きると部屋にアリやトカゲがいたり、サルが廊下を走っていたり…。毎日の強い日差しやスコール、ヘイズ(※)にも悩まされました。また、独特のなまりのある英語も聞き取るのが難しく、はじめはうまくコミュニケーションがとれないこともありました。初海外ということもあって戸惑いも多く、大

変なこともたくさんありましたが、その一方で、現地でできた友だちと夜遅くまで語り明かしたり、いろいろな国に旅行に出かけたり、楽しい思い出もたくさんできました。マレーシアで過ごした5か月はあつという間でしたが、現地での時間の流れはゆっくりとしていて、1日1日は長いように感じました。今までは違う環境に置かれたことで自分にできること・できないことを見えてくると同時に、いろいろなことを考えました。特に強

(※) ヘイズとは煙霧のことで、ヘイズの時期には辺りが白く視界が悪くなります。身体にも悪いと言われており、ひどいときにはマスクをつけている人も少なくありません。